

久喜市教育研究委員会

⑤学力向上推進研究委員会

予測困難な時代に必要「未来を拓く力」を育成するため、主体的・対話的で深い学びの授業研究・改善の方法について研究を進めています。

発問の工夫や授業改善を通じて、自ら問いを見出し、主体的に問題を解決する生徒を育てていきたいです。



井上教諭
(久喜中学校)

⑥道徳教育研究委員会

市全体で道徳教育を推進できるよう、研究を進めています。

中学校区全体で児童・生徒の豊かな心を育めるよう、指導の重点や取り組み、授業改善について話し合い、各校で実践を進めています。



谷合教諭
(江面小学校)

⑦SDGs実現のためのESD研究委員会

全ての小・中学校で「持続可能な社会を実現していくための教育(ESD)」に取り組み、SDGsの視点を取り入れた授業の在り方について研究しています。

地域や企業と連携し、地域の資源を使い、小屋を建てたり、大風を揚げたりする体験を通してESDに取り組んでいます。



高柳教諭
(栗橋西小学校)

②STEAM教育研究委員会

「なぜ?」「創りたい!」といった、「?」や「!」に溢れた学びを推進するチームです。子どもたちがワクワクするような探究的な学びを研究しています。

教科の枠を越えた学びで「未来のイノベーター育成」に取り組んでおり、STEAM教育はまさにその追い風です。それぞれの教科の良さを紡ぎ合わせた学びへ、より本質的な学びの風が、久喜市の学校に吹き始めています。



西潟教諭
(青毛小学校)

③未来の公教育研究委員会

ICTリテラシーの向上と校務の効率化・自動化を進めています。

ICTを活用して汎用的・効率的な校務支援システムを試験的に開発し、持続的に発展させようとする文化の構築を目指しています。



船津事務主任
(久喜東小学校)

④社会科副読本研究委員会

小学校3・4年生が使用する社会科副読本の改訂や「くき検定」等の取り組みを行っています。

郷土に対する誇りをもつことができるような副読本や評価問題等の作成を行ってきました。今年度は、副読本のデジタル化を目指しています。



小澤教諭
(三箇小学校)

市ではICT教育をはじめ、さまざまな教育課題に対する取り組みを、有識者の方の意見も頂戴しながら前進させるための組織として、市内小・中学校の教職員が委員となっている7つの研究委員会があり、約160人の教職員が委員になっています。その取り組みの一部を紹介します。

①久喜市版未来の教室研究委員会

・メタバース体験会

学校以外の学びの場として、「アバター」と呼ばれる自分の分身を動かし、仮想の教室で学習する仕組みです。



仮想空間内で、人と繋がることができる良さを感じました。今後の教育の可能性を探ってみたいですね。



清水教諭
(栗橋南小学校)

・文部科学省実証推進事業の情報共有

令和4年度は市内2校の実施状況を、市内全ての学校で情報共有しています。

ー江面小学校ー

「次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業」に参画しています。

江面小では対話や協働を通じた授業改善を進めています。子どもたちは、相手の話を興味・関心をもって聴き、考えを理解しそれに対する自分の思いや考えを伝えることができるようになってきました。



朝武紀雄さん
(江面小学校長)

子どもたちへ。人と話し合いながら考えていると、いつの間にか考えが変わっていることではないかな?それが学ぶということ。だから、これからは対話で考えをよくしていこう。



白水始さん
(国立教育政策研究所 総括研究官)

ー久喜小学校ー

GIGAスクールにおける学びの充実「情報モラル教育推進事業」研究指定校として、「デジタル・シティズンシップ教育」に取り組んでいます。

より良いデジタル社会を創造し、主体的に参画していく力の育成に向け取り組みを進めています。



青山里美さん
(久喜小学校長)

GIGAスクール構想と併せて注目されている「デジタル・シティズンシップ」は、「デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力」と定義されています。

情報端末やネット利用は大人も子どもたちにも、日常生活に不可欠なものとなっています。さまざまな場面でのデジタル技術の利用を前提とすれば、これまでの情報モラルで扱ってきたような利用の制限・禁止よりは、むしろ、子どもたちによる創造的・社会的な日常活用を促し、自律と課題解決の力を育てることが求められています。

子どもたちの技術スキルは自然と身に付くものですが、デジタル世界での社会性や倫理を身に付ける場面は限られています。成長の段階に合わせて、それぞれが抱えるデジタルのジレンマ課題を丁寧な対話を通じて、学校で育てていくことが大切です。



国際大学グローバルコミュニケーションセンター 准教授・主幹研究員
豊福 晋平さん

・Google本社(渋谷ストリーム)研修会



研修会に参加したメンバー

オフィス見学を通し、働き方・職場のあり方の固定概念が大きく変わりました。授業事例の共有やGoogle社講師の方による研修会では、大いに刺激を受けました。



澤田教諭
(菟浦中学校)

・Google認定教育者資格取得研修会

Google for Educationの活用スキルを証明する資格です。

資格を取得し、久喜市の教育の前進に貢献できるよう頑張ります!



福原教諭
(太東中学校)

・デジタル教科書の活用実践事例の共有

久喜市では、小学校5・6年生や中学生の教科の一部に導入されています。

子どもたちの学習意欲が向上し、コミュニケーションを取りながら学びを深め、学力の向上につながっています。



渡辺教諭
(久喜東小学校)

学習者用デジタル教科書は教師が教え込む授業から子どもたちが主体的に学びとる授業への転換のきっかけになると考えています。



中川一史さん
(放送大学 教授)



▲久喜小PTA向けに講演した内容



日本ICT教育アワード
今後のICT教育のモデルケースとしてふさわしい自治体の取り組みを顕彰することを目的としています。
今回は、79自治体から応募があり、初の応募となった久喜市は「次代の世界で活躍する『未来を拓く力』を育む『久喜市版未来の教室』の実現」に向けた取り組みが評価され、表彰されました。

第5回「日本ICT教育アワード」
全国ICT教育首長協議会会長賞・
日本視聴覚教育協会会長賞 W受賞!

この度は、受賞おめでとうございます。私も、この審査に関わっていますが、久喜市の取り組みは、教育を改革しようという意気込みが素晴らしいです。そして同時に、地域文化と人としての教師の良さを生かすということが魅力なのです。

久喜市のICT教育の取り組みの柱である「久喜市版未来の教室」の実現に向けた取り組みが評価されましたこと、誠に嬉しく思います。各学校の先生方のご努力、保護者の皆様のご協力、そして何より子どもたちの学ぶ力の結果です。今後も、学校、家庭、地域と連携し、未来を拓く力を育み、誰一人取り残さない教育の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

国全体で、教育環境のICT化推進やデジタル社会を担う人材育成が求められる中、久喜市のICT教育が評価されました事、大変光栄に思います。
引き続き市民の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、教育委員会と綿密に連携し、未来の久喜市を担う子どもたちが笑顔一杯に過ごせる教育環境の充実に一層努めてまいります。



東京工業大学名誉教授
あかほり 侃司
赤堀侃司さん
(審査員)



かきぬまみつお
柿沼光夫教育長



うめだしゅういち
梅田修一市長